

## バリュー・イノベーションの創造

執行役専務

東 実



2006年の世界の景気は、アジア地域の経済発展や欧米の堅調な経済成長により総じて好調に推移し、また、日本でも長期にわたる緩やかな回復基調が続き、いざなぎ景気を抜いて戦後最長の景気拡大期となるなど、世界経済は過去にない長期的成長局面にありました。東芝グループも成長事業への戦略的な資源シフトを行い、ウェスチングハウス社の買収による原子力事業の強化や、NAND型フラッシュメモリを中心とした半導体への大型投資、また、世界初のHD DVDプレーヤ・レコーダの発売など積極経営を展開しました。

2006年下期から東芝グループは、新しいスローガン「Leading Innovation」を掲げました。その趣旨は、“技術・商品開発、生産、営業活動に次々とイノベーションの波を起し、新しい価値を創造し続けることによって持続的成長を続け、躍動感にあふれる、より信頼され期待される企業になる”ことにあります。イノベーションは広範な意味合いを持っています。プロセス・イノベーションはコモディティ商品を支えていくということでは極めて重要ですが、市場を先取りするには、市場の変化に先駆けてテクノロジーを醸成し、お客さまにとっての価値、つまりカスタマーバリューを創出するバリュー・イノベーションが必要となります。市場との対話を通じてまったく新しい価値を提供していく“バリュー・イノベーションの創造”により、新しい暮らしや文化を創出するテクノロジーを一つでも多く生み出していきたいと考えます。

今回の技術成果のハイライトも昨年同様、東芝グループの技術と商品を“驚きと感動”、“快適”、“安心と安全”、“新機能素子・材料/生産技術”の四つのカテゴリーに分類して掲載しました。

2006年の技術成果のポイントは、以下のとおりです。

“驚きと感動”では、世界初の再生・録画に対応したHD DVD搭載のハードディスクレコーダ、通信速度が大幅に向上しIP (Internet Protocol) テレビ電話に対応した携帯電話、日本で初めてワンセグ放送の視聴と録画を可能にしたHDD内蔵のオーディオプレーヤ、56nm世代の高速多値NAND型フラッシュメモリ、及び画素ピッチの微細化により小型化を実現したCMOSエリアイメージセンサ Dynastron<sub>TM</sub>などを商品化しました。“快適”では、冷風エアコン機能搭載の洗濯乾燥機“エアコンサイクルドラム”、寿命が2倍で直下の明るさが30%増の蛍光灯“メロウZ PRIDE<sub>TM</sub> (プライド)”などを商品化しました。また、“安心と安全”では、H System<sub>TM</sub>を採用した高効率コンバインドサイクル発電設備、次世代の東海道・山陽新幹線電車N700系用の自己通風冷却方式を採用した主変換装置、日本版SOX法(金融商品取引法の一部)対応をはじめとした企業の内部統制を支援するソリューション技術、及び3次元画像をリアルタイムに表示する4D機能搭載の超音波診断装置などを製品化しました。更に、“新機能素子・材料/生産技術”では、次世代LSI用の高駆動電流トランジスタの実現に向けたメタルソース・ドレイン電極、300mmウェーハ用のクリーンルーム内作業の自動化システムなどを開発しました。

以上、未来を見据えた東芝グループの技術開発の状況と成果の一端を紹介いたしました。ぜひ本文をご一読いただき、皆さまのご助言、ご指導をいただければ幸いです。